

国道の道路付属物にアクセスポイントを設置する試みは全国初

・道路空間を活用して、大規模災害発生時における道路管理者と点検・復旧を行う外部機関との通信手段の確保と、通常時における一般ユーザーの通信環境の向上を目的として無線LAN設備を設置する社会実験を実施。

■社会実験の概要

道路管理者用光ケーブルを活用して、無線LAN設備を設置することで、インターネットが繋がりやすい環境を構築。

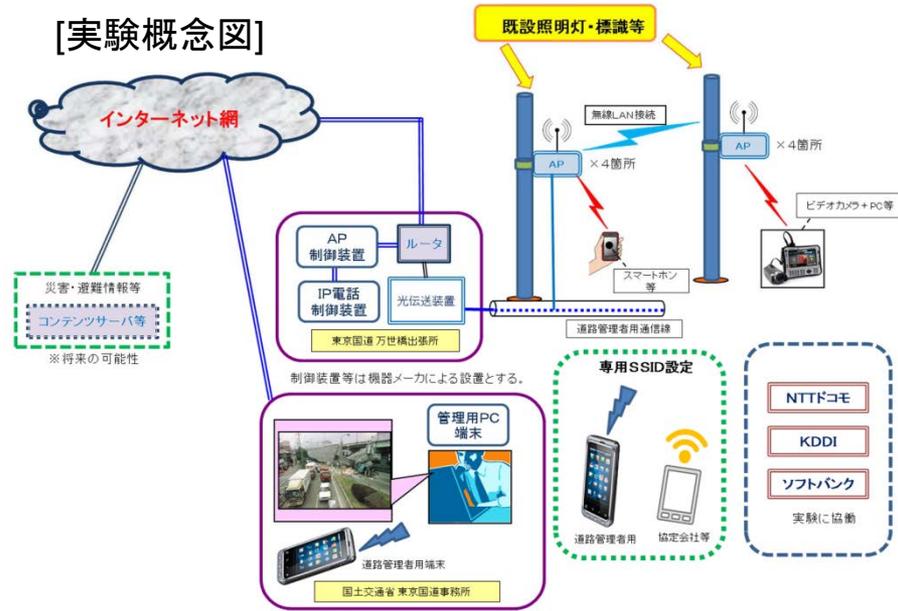
● 実験内容

- ① 道路空間に無線LAN設備の機器を設置
 - ・光ケーブルは民間開放を想定し、道路管理者用の回線を使用
 - ・道路管理者用の専用SSIDと一般利用の公衆用SSIDを設定
※SSID：無線LANのアクセスポイントを認識するための名前
- ② 災害時と通常時を想定した実験を実施
 - ・通常時は道路管理者用の回線は、一般向けの容量を多く割り付ける
 - ・災害時は道路管理者用の容量を多く割り付ける
 - ・平常時と災害時の通信状況を確認
 - ・災害時を想定した、パトロール等の状況報告に有用なアプリケーションを検証
- ③ 本格運用に向けたより良い道路空間活用の検討と制度改善の方向性を整理

[位置図]



[実験概念図]



■設置機器の概要

